

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502306		
法人名	株式会社ケアプロダクツ		
事業所名	グループホームあじさい美園 2階		
所在地	札幌市豊平区美園7条3丁目4 - 24嘉指ビル2・3		
自己評価作成日	平成24年4月25日	評価結果市町村受理日	平成24年5月21日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502306&SCD=320&PCD=01>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1 - 6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成24年5月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族と、入居者、外部との関係を断ち切らない様に支援している。又、ゆっくり、のんびり生活出来る様に職員一同ケアに努めており、笑顔で笑いが絶えないような生活環境作りをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<事業所独自の家族アンケートの実施>
事業所独自の家族アンケートを実施し、苦情や要望、意向等を把握してケアサービスの質の向上に努めている。また、アンケートの内容について検討し、改善に活かしていると共に運営推進会議での説明や家族へその結果について報告している。

<内部研修の充実>
身体拘束廃止や高齢者虐待防止、救急救命等職員の段階に応じた内部研修の充実や協力医療機関・グループホーム協議会主催の外部研修の参加でスキルアップに努めている。また、職員の資格取得を奨励し、費用等の負担をするなど向上心を持って働けるように職場環境の整備に努めている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)				項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	パンフレットに事業所の理念「心和」を載せ、事業所内では目立つ場所に理念の掲示をしている。心のふれ合い、地域と交わりながら生活出来る様にしている。	事業所独自の理念をつくりあげ、ユニット毎の会議や合同会議で話し合い、その理念を共有して実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事には積極的に参加する事で地域の人達との交流をし、散歩・買い物・ゴミ捨て時に挨拶をしたり、お花を頂いたり顔見知りになっている。避難訓練やホーム内行事にも参加して頂き日常的に交流が出来る様にしている。	火災や地震、水害等の発生に備えて地域の人々からの協力が得られるように働きかけて、地域の防災対策の防災ズキンの寄贈を受けたり、利用者が制作するなど協力体制に努めている。また、避難訓練参加や来訪への呼びかけ、近隣の銭湯の利用や買い物等で交流に取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方にグループホームがある事を知って頂いており、気軽に質問や相談をしてきているが、自施設で対応が出来ない時には、他事業所にも相談している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催しており、サービス内容・問題点・ご家族からの苦情についても報告し、出席者より意見を頂き日々のサービス向上に活かしている。	2ヶ月毎に定期的に開催し、介護保険制度やサービス提供の具体的内容について話し合い、そこでの意見を運営に反映している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の会議の参加や保護課職員・包括支援センターとの連絡などをとり協力関係を築けるように取り組んでいる。	包括支援センターや市保護課と連携をとりながら、協力関係を築くように取り組んでいる。また、地区の管理者会議や市主催の研修会等の参加を通じて情報交換をしている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修時に全職員で考えられる様々なケースについて検討し座りっぱなしにしない、行動制限しないなど常に認識を新たにし、ケアに取り組んでいる。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を内部・外部研修を通じて正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どのような事が虐待にたるか、虐待になる行為が無いかが会議や研修で取り上げたり、外部で起きた虐待にも目を向け、日々の生活の中で職員同士が意見交換を行い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し学ぶ機会を設けているが、。現在では対象者がいないので活用はしていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等に関する事は十分に時間をかけ説明している。利用者・ご家族の不安や疑問点を尋ね丁寧な説明を心掛け理解・納得が出来る様になっている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等でご家族からの意見・要望を聞き、出席できなかった家族へは、会議録として送付している。又ご家族アンケートを実施しており、アンケート結果は運営推進会議で公表され運営に反映されている。	事業所独自の家族アンケートを実施し、苦情や要望、意向等を把握してケアサービスの質の向上に努めている。また、苦情等の受付箱の設置や相談窓口の啓発ポスターを掲示し、管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に管理者は職員の意見や要望を聞ける様にしており、月に1度の合同会議では管理者の他に運営に関わる職員も出席しているので、職員の声が運営に反映出来る様にしている。	ユニット毎の会議や合同会議等を通じて職員の意見や要望、提案を聞くよう機会を設けている。また、カンファレンスやモニタリングで話し合い、職員の意見を運営に反映できるように努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の給与水準の見直しを行っている。研修や資格試験の費用の全額負担等、職員のやる気に合わせ、個々が向上していけるよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部の研修を受ける機会を確保している。研修にかかる費用も事業所で負担しており、無資格の職員には資格取得を目指せる様にしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者連絡会の出席や研修会等を通し、他の同業者との交流をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に出来る限り、お話を伺い困っている事・不安な事・求めている事を傾聴し全職員に情報提供し、安心して生活出来る様に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまでの経緯、サービスに関する内容等で困っている事・不安な事をその都度傾聴し、ご家族と信頼関係を築けるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人や、ご家族の状況から何が必要かを見極め、話し合い、必要であれば他のサービスも利用できるように努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に同じ時間を過ごしながら、人生の先輩としてお互いが役割を持ちながら家族の様な信頼関係を築いている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を電話や面会時、毎月のお便り等で伝え、イベントに参加して頂く事で家族との時間を大切に、本人＝家族＝職員が良い関係を築けるようにしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけニーズに答える様にしているが、身体状況から長時間の外出が難しい人もいるが、電話等の取り次ぎや、親戚や友人の面会も、いつでも気軽に来て頂ける様に努めている。	公園への散歩や清掃等の町内会行事参加を通じて、馴染みの人や場所の関係が継続できるように努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員も一緒に会話に参加したり全員でレクリエーションを楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、ご家族と連絡を取り合い相談や支援に努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から本人の気持ちを伺い希望に添える様にしている。又生活の中で気付いた事や、起こった事を申し送りや会議で話し合い、情報を共有している。	生活歴や要望等を把握するためにセンター方式を活用し、一人ひとりの意向の把握に努め、本人本位に取り組んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族からの情報を元に情報シートで生活歴を把握している。職員は必ず目を通し新しい情報は追加している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子や出来事を職員間で共有し記録を細かく記入する事で全体が把握出来る様に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師や看護師の意見、本人、家族の意向を受けて職員同士の情報交換や担当者によるモニタリング・アセスメントを行いユニット会議でサービス内容・現状について話し合い介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や医師・看護師の助言を反映するよう努めている。また、モニタリングやユニット会議を通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の出来事を細かく記録に残し、食事や水分量・排泄チェック表を利用し職員間で情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り、個々のニーズに応えられるよう努めている。外出・外泊等には柔軟に対応しご希望があれば、ご家族に泊まって頂ける様にしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、買い物や理容店に行ったりして楽しむ事が出来る様に支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診の他に、ご家族が希望する医療機関とも連絡をとり適切な医療を受けられる様に支援している。	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医となっている。また、医師の往診や看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内で看護スタッフが確保されており、何か有れば看護師に相談したり、提携医療機関に相談し、日々の健康管理、状態変化にもすぐに対応出来る様情報の共有も出来ている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は出来るだけ避けているが、入院が必要な場合には、ご家族や職員が頻繁に病院へ行き落ち着いた環境で治療を受け、病院関係者・ご家族と早期に退院出来る様に話し合っている。又、協力医からも連絡が密に入り本人の状況等の情報交換を行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアについては、本人・ご家族・協力医療機関と相談し対応出来る様に取り組んでいる。又事業所でする事・出来ない事を明確にしている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所が出来ることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応のマニュアルを作成し、内部研修や会議で確認している。救命救急訓練にも参加している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行われており、町内会の協力体制も築けている。	地域の人たちが参加して、火災避難訓練を実施し、協力体制を築いている。また、緊急時に備えた救急救命訓練も実施している。	事故の未然防止にヒヤリ・ハットに取り組み運営推進会議に報告している。今後は、データの分析を行い、さらなる事故防止に役立てることを期待します。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、優しくさりげない声掛けで気持ちを損ねない様に対応している。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないよう職員間で周知している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や意向を大切にし、自己決定出来る様な会話・声掛けを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の生活リズムは作りながら、起床・就寝・入浴・お手伝い等、一人一人が無理のない様に生活出来る様に支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った洋服を一緒に選んだり、お化粧品が好きな方はご自身で行えるように見守ったり、一緒に洋服を買いに行ったりして支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事の準備・後片付け等を一緒に楽しく行っている。利用者の好きなメニューも取り入れている。	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や後片付け、食事をしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量・飲水量のチェックを行っている。1日の飲水量が足りなくなる様に支援している。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い職員と一緒に口腔ケアを行っている。口腔内に異常が認められた場合には協力医療機関と連携し支援している。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握しさりげない声掛けでトイレ誘導を行っている。可能な限りオムツ・リハビリパンは使用しない様になっている。	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレで排泄できるように自立への支援をしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつは乳製品を取り入れ、食事は野菜をしっかりと摂取出来る様に調理法も配慮している。適度に体を動かす様に体操も取り入れている。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミング・体調の良い時に気持ち良く入れる様に支援している。	本人が希望すれば曜日や時間等が対応可能となっている。また、一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて週2回を目安に支援している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時のケアは1人ひとりに合わせて支援している。寝具も気持ちよく眠れるよう清潔保持に努めている。又、生活リズムを整え眠剤を服用せず安眠して頂ける様に支援している。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内部研修で一人一人の服用している薬について学び、全職員が薬帳を持っているので、変更があった時には随時更新している。服用については、必ず2名の職員で誤薬が起きないように注意を払っている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る事を減らさない様に、会話の中で好きな事・楽しみな事・やりたい事等を把握し、職員と共に行える様に支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調に合わせて近所の散歩や買い物、町内会の行事に出かけている。動物園やお花見などにも出かける様に支援している。	一人ひとりのその日の希望にそって、近隣公園への散歩や買い物等戸外に出かけられるように支援に努めている。また、お花見や動物園見学等普段ではいけないような場所への訪問も支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力に応じて援助をしており、家族に協力と理解もいただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは自由に行えるように支援している。又年賀状の作製も一緒に行っている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や掲示物・写真を飾ったり、温度・湿度計を何カ所かに設置し、心地よく生活出来る様に工夫している。	共用空間や廊下の壁には、習字やぬり絵等の作品や行事参加の写真を掲示し、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間での席などに考慮し気のあった利用者同士で楽しく過ごせるように工夫している。又、ベランダ前にも椅子を置き外気浴が出来る様に工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、ご本人の使い慣れた物を持って来て頂いており、居室内にはご家族の写真等を飾り、入居後も心地よく生活出来る様に工夫している。	居室には、本人や家族と相談しながら、家族の写真や使い慣れた家具等が持ち込まれ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒の危険がないようホーム内を整備している。ご本人の部屋がわかるようドアに写真を飾ったりしている。又、心身の状態等により会議を開き何が必要かを話し合っている。		

目標達成計画

事業所名 あじさい美園 2階

作成日: 平成 24年 5月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化、終末期に向けた職員への十分な心構えや知識についての研修が不十分。	職員が、重度化、終末期に向けた心構え、知識を研修などを通し学ぶ事が出来る。	内部研修を予定するとともに、外部の研修へも積極的に参加を行い、職員が重度化、終末期へ向けた心構え、知識を身につける。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502306		
法人名	株式会社ケアプロダクツ		
事業所名	グループホームあじさい美園 3階		
所在地	〒062-0007 札幌市豊平区美園7条3丁目4-24嘉指ビル2・3階		
自己評価作成日	平成24年4月25日	評価結果市町村受理日	平成24年5月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様との関わりを大切に、誠意を持って接している。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502306&SCD=320&PCD=01
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年5月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念、「心と」を常に心にとめ、日々のケアを行っている。心のふれあいを大切に地域と交わることとし、地域住民の方と会った際には必ずご挨拶を交わしている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内行事への参加や、ホーム行事に町内会の方を招待している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方にグループホームがある事を知って頂いており、質問・相談、見学等の対応をしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催しており、町内会、ご家族からの意見をいただき、サービスへ反映している。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の管理者会議に参加している。また、地域包括職員や、豊平区役所の生活保護課担当との連絡を取り合い、ケアサービスの取り組みを伝えている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どういった事が身体拘束となるのかを内部研修を通じて周知し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。夜間帯は防犯上、施錠を行っているが、日中は玄関を開放しており、外出の際には見守り同行の支援を行っている。また、緊急的にやむを得ず一時拘束をする際には必ず、報告し許可を得ることとなっている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修として虐待についてを学び、虐待行為のない様徹底している。また、ポスターの掲示などで常に虐待防止の意識を持つ様心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しての外部研修に参加し、理解を深め、外部研修報告を行い、他職員にも周知している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、時間をかけ説明し、ご理解のもと記名・捺印を頂いている。職員にも契約の際の内用を周知する様、重要事項説明書、利用契約書を掲示している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱をホームの入り口に設置し、ご意見・ご要望を聞く機会を設けている。また、ご家族様へアンケートを配布し、ご回答ならびにご意見を記入して頂き、それを基にカンファレンスを行う、改善策を講じている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や合同会議時に職員の意見・質問の聞きとりを行っている。また、職員からの意見を取り入れ、必要に応じてカンファレンスを実施している。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回給与査定の見直しとして、職員へ自主評価、管理者による評価を行っている。また、資格取得を目指した研修や、内部研修・外部研修参加の機会を設けている。カンファレンスは明け者の拘束の負担にならない様原則午前中行うこととしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を実施し、毎月、研修の場を設けている。外部研修は主に希望者を募り実施、また、適任と思われる職員に研修を受けていただき、働きながら学べる環境づくりに取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者連絡会、ケア会議に参加した際に、同業者との情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居開始前に本人と面談し、不安や希望する事を聞き出し、職員間で情報共有し、ケアプランに反映している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や本人が困っていること、入居に至る経緯を聞き出し、ご要望にそえる様努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談機会を多く持ち、本人やご家族、入居前の担当医等から聞きとりを行い、見極めを行っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭におき、家事などできることは強行し行って頂く様心掛け、家族の様に接している。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日常の様子や変化をご家族報告している。必要時には通院、往診に付き添って頂き、共に支えていく関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人、ご家族様への電話の取り次ぎや会話の仲介を行っている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話の仲介などを行い、孤立しない様に気を付けている。また、トラブルのない様、座席の配置にも気を配り、話し合いの上、決定している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、連絡をとれる様にしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で本人の希望・意向を把握するようにしている。又、知り得た情報は申し送りや、ケアカンファレンスで全職員が共有できる様にしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族様からこれまでの生活歴の聞き取りを行っている。入居前にはご家族様アンケートとして、生活歴シートを配布し、ご記入して頂いている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、毎日の生活を記録に残すこととしており、申し送りにて他職員と情報共有をしている。また、心身状態、有する力の状態把握のアセスメントを行っている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の希望、意向、医師からの助言を参考に、日々の観察から察知できる本人の希望を取り入れた介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に個別に残し、全職員が情報を共有し、カンファレンスにて介護計画の見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や買い物などの同行支援はその時の状況に合わせて対応し、希望に添える様にしている。時間に捉われないケアの実践を心掛けている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理美容や商店などと交流があり、気兼ねなく外出できる関係づくりに努めている。地域ボランティアの行事参加を行っている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診・往診先、緊急受診において、ご本人、ご家族の希望を優先し、診療を受けている。なにかあれば密に連絡を行い、医療機関との信頼構築も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場の看護職員が週に一回体調確認を行う際、全入居者の日々の体調変化を伝え、指示を受けている。また、提携医療機関との看護師とも情報共有を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に赴き、関係者との信頼構築を行う、本人の現状を詳細に把握できる様努めている。また、早期退院に向けた意向を病院側に伝えている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所であることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現段階ではターミナルケアを行っていないが、ターミナルケアの実施についての話し合いは行われている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて応急手当や初期対応の研修を行っている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っており、日中・夜間帯共に想定した訓練を実施している。また、訓練時には町内会の方にも連絡し、参加していただいている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りを損ねない声掛けを心掛けている。スピーチロックについて職員に周知している。また、プライバシーの保護としてオムツ類等は他者の視界に入らない位置に収納している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる声かけを心掛けており、選択できる言葉かけを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意見・希望を取り入れ、個々のペースを大切にしている。入浴日など予定は設けているが、希望によって柔軟な対応を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容の際には本人の希望を伝え、希望に沿ったヘアスタイルになる様心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ、配膳、盛り付けや、食後の下膳、食器洗い、食器拭きのお手伝いをして頂いている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事摂取量をチェックし、個々の状態についてケアカンファレンスにて話し合い、個々の状態に応じて粥食、刻み食、とろみ対応にて提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じて、声掛け、見守り、介助にて毎食後の口腔ケアを行っている。嚥下状態に応じて、口腔ケアシートを使用し、口腔ケアを行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを記録し、状況と排泄頻度の把握に努めている。なるべくトイレを使用して排泄出来る様支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を記録し、把握に努め、意思や看護師による排便のフォローを含めた下剤の使用を行っている。また、予防としておやつにヨーグルトを取り入れたり、便秘に良いとされる飲食物の提供を行っている。運動不足による便秘予防の為、毎日体操の時間を設けている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	清潔保持の為、最低週2回の入浴または全身清拭を行っている。入浴の予定日はあるが、体調や希望に応じて柔軟に対応を行っている。個々に沿った支援として、シャンプーハットの使用や入浴剤の使用にて入浴を楽しめる様工夫している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状況に応じて、昼寝をしていただいたり、休息の時間を勤めたりしている。また、夜間帯に安眠して頂ける様、日中に適度な運動を行う様、体操の時間を設けている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内部研修にて応急手当や初期対応の研修を行い、薬の作用、用法・用量についての理解を深めている。処方箋を美園メディカル薬局へ一任しており、薬について不明点があれば連絡を取り合っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人からやりたい事や、ご家族から意向を聞き、ケアプランに反映し取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>本人の希望をご家族に伝え、ご家族と外出する機会を設けていただいたり、普段行けないような場所でも行事を通じてご家族に参加を呼び掛け、外出出来る様支援している。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理ができる入居者様にはご家族了承のもと自己管理して頂いている。買い物同行支援を行い、安全にお金の所持、使用ができる様努めている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話の受信の取り次ぎと、希望時の発信の取り次ぎの支援を行っている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>環境整備委員会を設けており、共有の空間について不快をまねくことはない様、整理・整頓を行っている。季節を感じて頂ける様、季節に応じた飾り付けや掲示物を心掛けている。全居室に温湿度計を設置し、快適に過ごして頂ける様心掛け、必要時暖房、加湿器など調整を行っている。備品消耗品委員会を設け、蛍光灯の交換時期を把握し、蛍光灯が切れることがない様心掛け、発注・交換を行っている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下ベンチにて気の合う方向士で気兼ねなくお話ができる様、支援している。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みのある写真や置物を居室内に置き、落ちつく場所になる様努めている。ご本人が居心地良く過ごせる様、ご家族にも強力していただき、馴染みのものを用意して頂いている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室には写真、トイレには看板と、場所が分かる様工夫をしている。また、出来るだけ、自立に近い歩行ができる様、トイレ、廊下には手すりを設置し、安全に努めている。</p>		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	新入社員も増えた為、事故発生時や緊急時の対応についての対応の徹底を職員間でしっかりと統一する必要がある。入居者の特質別(低血糖、暴力行為など)に起こりうる緊急対応のマニュアルがない。	事故や緊急時にマニュアルに基づき、全職員が的確な対応をとれる様にする。	事故発生時、緊急時の対応についての内部研修の実施と、マニュアルの見直しを行い、作成する。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。